

中割地区再生促進協議会（西之表市）

地域の「やりたい」を廃校で実現



地区概要

種子島のほぼ中央に位置し、市街地から20km程離れた山間地である。大正3年（1914年）の桜島大正大噴火で罹災した人々が、新天地として移住し開拓したことにより始まった。

昔からの自然が多く残っており、様々な地域資源や種子島・屋久島にしか自生していないヤクタネゴヨウという固有種も確認されている。

コミプラ設立の経緯

平成26年に閉校した鴻峰（こうのみね）小学校の校舎の活用策をさぐる「中割地区再生促進



移住記念碑

協議会」として発足。これをきっかけに地域住民と校区が地域課題及び地域活性化に協働して取り組む必要が生じたため、区長自ら住民に声かけを行い、話し合いや先進地視察を経て設立に至った。

協議会では3つの専門部会（総務、コミュニティ、交流活性化）を設けており、当初はそれぞれの部会で活動を実施していたが、現在は部会にとらわれず組織全体で廃校跡の「こうのみね館」を活用した取組を行っている。

特徴的な活動

①廃校の改修と活用

平成26年に閉校した旧鴻峰小学校の活用方法について、地区住民が意見を出し合って改修計画を立て、平成29年に「中割地区地域活性化交流拠点施設（こうのみね館）」として再生した。

健康づくりや生きがいづくり、また、地域住民と島内外の方々との交流の場として活用することを目標としている。こうのみね館では、地区の農家の方々による「農業体験」や絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウ自生地周辺での「自然散歩・山菜採り」など、中割でしか味わえない体験が多く用意されている。

また、こうのみね館では「こうのみねまつり」が行われており、もちつき体験やエイサー披露、農産物・地元産物の直売などが開催されている。特別教室棟に誘致したIT企業が主催するイベントも開催され、廃校を有効活用し、地域活性化へ繋げている。



こうのみね館

②食農セミナーの開催

農作業を体験する機会が少ない方や関心を持っている方などに、毎月1回様々なメニューの農作業体験を楽しんでもらえるイベントを行っている。内容は、野菜等の手入れ、種まき、球根類の植え付け、花木の挿し木や接木の方法、安納芋や時計草の収穫、漬物づくり等となっている。

また、農業体験以外にも、季節の地元食材を使ったレシピの紹介や調理、試食もあり、新しく中割地区に引っ越してきた方々も地元食材を楽しみ、調理を学ぶことができる。中割地区内の方だけでなく、外部からの子ども連れも参加しており、食農セミナーを通して交流人口の増加につながっている。



食農セミナー

今後の展望（コミプラの声）

今後、更なる自然資源の発掘と活用をしていきたいと考えている。具体的には、食農セミナーの再開や自然散策の実施による交流人口の増加、そして移住・定住の促進をすることで、地区のにぎわいや活力創出につながることを期待されている。多くの方々が「中割に住んで良かった」と思えるような地域・他の校区に自慢できる中割を目指している。

西之表市から一言

令和3年度に、移住・定住や交流人口の拡大を図るため、校区単位では初めてとなる地域活性化包括連携協定を「こうのみね館」に誘致した東京のIT企業・地元不動産会社と締結するなど、市内でも先進的な取り組みを行っている地域です。

実際にIT企業の社員であるバングラデシュの方も2名、地域で暮らしています。

令和5年度は地域ワークショップ（課題解決とこうありたい未来を考える）を開催することが決まっており、体験宿泊も含めて今後も「こうのみね館」を拠点とした中割校区の特色を活かしたコミュニティの場づくりをサポートしていきます。

利用した補助金など

- ・地方創生加速化交付金（内閣府）（H29年度）
- ・過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業補助金（総務省）（H28年度）



こうのみね館
(kounomine.com)

Passion

**廃校は可能性の塊！
ピンチをチャンスととらえるべし！！**